

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月19日

北海道運輸局

協議会名: 北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果
北海道北見バス株式会社	勝山線など全9系統 【車両減価償却費等国庫補助】	ホームページの路線・時刻検索などの周知方法を見直し利用者の利便性向上を図った。	A 計画通り適切に実施された	A 観光利用の拡大や、外国人実習生の利用などにより、広域交通の利用者数は目標値「1,259,000人以上」に対して「1,259,171人」であった。	地域利用者のニーズを反映したルートに変更する等利便性向上に努め、また、運行回数を見直し等により、運行の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり事業は適切に実施されている。 一部の目標を達成することができなかったが、引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。
網走バス株式会社	女満別空港線	ホームページの時刻表を見直し利用者の利便性向上を図った。また、自社デマンドバスと連携した周遊チケットを期間限定で販売し、利用促進とともに利便性向上を図った。	A 計画通り適切に実施された	A 観光利用の拡大や、外国人実習生の利用などにより、広域交通の平均収支率は目標値「37.80%以上」に対し「38.97%」であった。	関係自治体と連携を密にし、PRを強化するとともに、観光客利用等の促進を図る。	
北紋バス株式会社	雄武線など全4系統	沿線自治体と連携しニーズに合った運行体系の構築に取り組んだ。また、一部路線においてはバスロケシステムを導入し、利用者の利便性向上とともに効率化の分析材料とした。	A 地域住民の足の確保の為に対象系統を維持することができた	C 物価高等の影響を受けた欠損額の増大などにより、公的資金投入額は広域交通への公的資金投入額は目標値「618,592千円/年度以下」に対し「651,871千円/年度」であった。	沿線自治体と連携を密にし、必要にあわせて、利用者ニーズに合わせた運行形態、維持可能な運行形態など、様々な面からの事業の見直し、効率化を図る。	
名士バス株式会社	興部線	新型コロナ対策として車内清掃、消毒作業、感染防止対策として乗客にマナーエチケットによるマスクの着用を促し、着用していないお客様に対しマスクを提供している	A 計画通り適切に実施された	A 老朽化更新やノンステップバス転換の促進に寄与することができた。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、地域住民の足を維持・確保する。	